

CT検査用 造影剤使用検査に関する説明

【造影検査とは】

造影検査とは、造影剤の注射をして行う検査です。この検査により病変の性状や部位などがわかりやすくなり、診断に大変役に立ちます。

注射された造影剤は、腎機能が正常であれば注射後約6時間で90%が尿となって排出されやがて全てが体外へと排出されます。

【副作用について】

最近の造影剤は改良されてきたので副作用の頻度が低下し、その程度もより軽度になってきていますが、時として他の薬と同様に造影剤による副作用が生じる場合があります。副作用には、検査中や検査直後に生じる即時性副作用と検査終了後数時間から数日後に起きる遅発性副作用があります。

- 即時性副作用：
 - 1) 軽い副作用
ほとんどが、くしゃみや一時的に気分が悪くなったり、吐き気、じん麻疹が出たり、かゆみがおきたりといった軽いもので、約100人につき5人以下、つまり5%以下です。
 - 2) 重い副作用
呼吸困難、意識障害、血圧低下などです。このような副作用は通常は治療が必要で、後遺症が残る可能性は否定できません。そのため、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用のおこる確率は約2.5万人につき1人、つまり0.004%です。
 - 3) しかし、病状・体質によっては約40万人に1人程度の割合（0.00025%）で生命にかかわる重篤な副作用がおこりえる報告もあります。
- 遅発性副作用：まれに、検査終了後数時間から10日後くらいの間に頭痛や、体がだるくなったり、じん麻疹が出たりすることがあります。

副作用が軽度の場合は、経過観察のみで改善する事が多いのですが、中等度の場合は症状に応じて抗アレルギー剤やステロイド剤などを投与する場合があります。高度の場合は、気管内挿管など救命処置を要する場合もあります。

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。
もし変だと感じたら、ためらわずにすぐおっしゃって下さい。

その他、わからない事や気になる事があれば、医師、看護師あるいは検査担当者に申し出て下さい。